

2017年度 礼文島国際フィールドスクールについて

北海道大学アイヌ・先住民研究センターでは、8月7日（月）から8月21日（月）まで、礼文島にある浜中2遺跡で国際フィールドスクールを行います。今年は、アメリカ、イギリス、フランス、オランダ、フィンランド、ロシア、台湾、日本国内から研究者や学生・院生、約70名が参加します。また調査には、アイヌ民族出身の参加者や地元住民も参加し、約3500年前の縄文文化期から数千年間にわたる島を往来した海民文化の歴史の解明に取り組めます。

1. 国際共同研究の目的

調査の目的は、北海道を含む北方圏に暮らした海洋狩猟採集民が長期的な気候変動にいかに対応し、どのように多様性を持った独自の文化を形成してきたのかを、人文系と自然科学系の研究者の共同研究により解明しようとするものです。

国際共同研究の一環として実施される国際フィールドスクールは、今年度から北海道大学サマーインスティテュート（HSI）として広く国内外の学生の参加を募り、実施されます。

2. フィールドスクールのプログラム

今年度のフィールドスクールでは、参加学生はオックスフォード大学、国立台湾大学、サハリン国立大学の研究者からの野外レクチャーを受講します。

遺跡における考古学の発掘調査技術だけでなく、花粉・孢子分析や古代DNA解析、安定同位体分析の手法を駆使した遺跡から過去の環境情報や古代の食生活、家畜飼育の方法を復元する手法を学びます。

また研究成果の発信の新たな手法を開発する目的で、海外で活躍する人形作家に遺跡から得られる歴史情報から物語を紡ぎ出す手法、身体技法を駆使した表現力を学びます。

なお、調査期間中には、地元、礼文町の郷土資料館のスペースを借用して、これまでの遺跡からの出土資料を展示し、研究成果の公開もおこないます。

2. 開催期間

2016年8月7日（月）～8月21日（月）

※上記期間中、日曜日は遺跡での発掘調査は休みます。遺跡での発掘調査は、19日が最終日となります。

3. 遺跡の所在地

北海道礼文郡礼文町大字船泊村ホロナイホ 499-2、499-4、499-5



4. 主催および研究助成基盤

調査主体：北海道大学アイヌ・先住民研究センター（調査主体）

調査協力：礼文町教育委員会、礼文町

調査担当者：加藤博文（北海道大学教授）

本調査は以下の研究助成を受けています：

1) 平成 29 年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 A）

「境界域での民族集団の形成：考古学と人類遺伝学によるアイヌ民族形成過程の解明」
（研究代表者：加藤博文）

2) 平成 29 年度日本学術振興会研究拠点形成事業（先端拠点形成型）

「北方圏における人類生態史総合研究拠点」（プロジェクトコーディネーター：加藤博文）

5. 参加機関

【日本】

研究者：16 名（北海道大学、東京大学、金沢大学、京都大学、琉球大学、北海学園大学）

大学院生：6 名（北海道大学、東京大学、慶應義塾大学）

大学生：25 名（北海道大学、東京大学、慶應義塾大学、東海大学、北海学園大学）

【海外】

研究者：5名（オックスフォード大学、国立台湾大学イルクーツク国立大学、サハリン国立大学）

大学院生：12名（フローニンゲン大学、ワシントン大学、ハーバード大学、ヘルシンキ大学、国立台湾大学、イルクーツク国立大学、極東連邦大学）

学部生：6名（ニューヨーク州立大学、ソルボンヌ大学、国立台湾大学）

6. スケジュール

- 8月1日（火） 浜中2遺跡発掘調査現場準備開始
浜中2遺跡発掘調査成果報告展示開始（ピスカ21）
- 8月7日（月） 北海道大学全学教育一般教育演習（～21日まで）
Hokkaido Summer Institute Program（～21日まで）
東京大学理学部実習（～12日まで）
- 8月8日（火） 日露共同大学院野外実習 RJE3 プログラム（～24日まで）
- 8月21日（月） フィールドスクール終了

7. 問い合わせ先

・プロジェクト事務局

前田明子（アイヌ先住民研究センター）

☎ 011-706-2859 / ✉ komae815@let.hokudai.ac.jp

8. 参考となるプロジェクトHP

・北方圏における人類生態史総合研究拠点 HP (<http://nt.cais.hokudai.ac.jp/jp/>)

・バイカル・北海道考古学プロジェクト HP (<http://bhap.artsrn.ualberta.ca/>)

・Facebook: <https://www.facebook.com/rebunfs/>